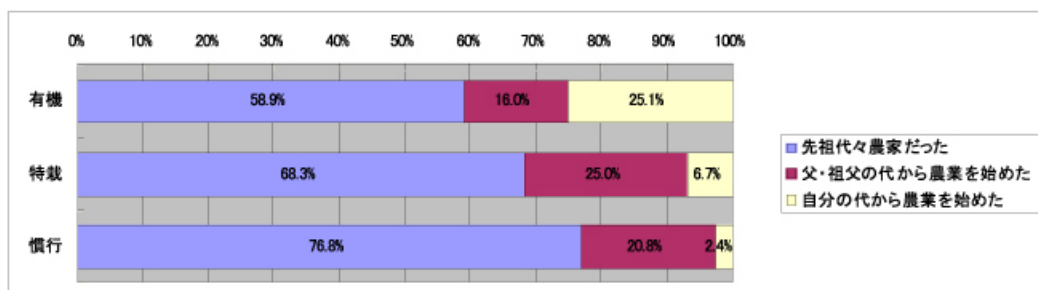


図1

農業に従事されたのはいつ頃ですか。

		有機 n=181	特裁 n=107	慣行 n=125
A	先祖代々農家だった	58.9%	68.3%	76.8%
B	父・祖父の代から農業を始めた	16.0%	25.0%	20.8%
C	自分の代から農業を始めた	25.1%	6.7%	2.4%

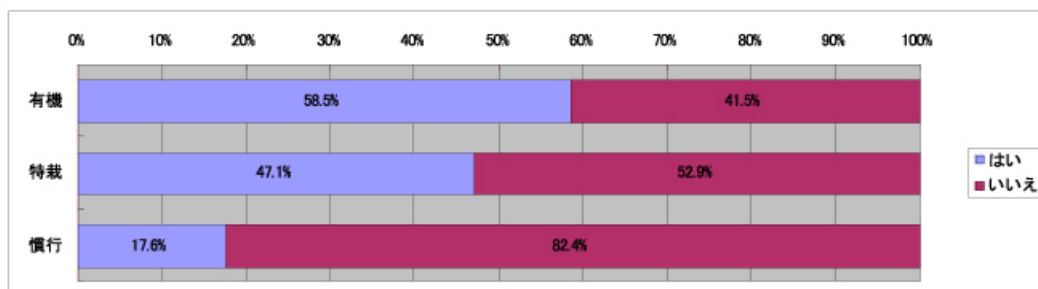


※最も興味深いのは、「農業に従事されたのはいつ頃ですか」という質問に対する結果である。慣行農家は先祖代々、父・祖父の代からというのを合わせて97.6%、つまり自分の代からは2.4%にすぎないのに対し、有機農家は自分の代から、すなわち新規就農が25.1%ということだ。新規就農者の多くは有機農業を目指し、実際に継続しているケースが多いという結果がわかる。

図2

後継者はいらっしゃいますか。

		有機	特裁	慣行
A	はい	58.5%	47.1%	17.6%
B	いいえ	41.5%	52.9%	82.4%



※後継者の有無については、有機農家が58.5%と過半数を超え、慣行農家は17.6%となっていて、慣行農家には後継者がきわめて少ない。

設計を行い、自然エネルギーを利用した生産工程の構築などモノづくりの思想そのものの転換です。

こうした観点からみた場合、農業分野ではまさに有機物の循環による土づくりと太陽エネルギーと水の利用による有機農業は「C2C」の考え方そのものを実現した産業であり、あらゆる産業が見習うべき原理を含んだシステムを実現しています。有機農業こそ21世紀の環境ビジネスであることが容易に納得できる考え方です。

これまで、有機農業は環境保全型農業といわれてきましたが、むしろ環境創造型農業というにふさわしい農業です。

オーガニックマーケット リサーチプロジェクト

まさに環境の時代、有機農業はこれからの農業として大きな可能性を含むものです。しかし日本では有機農業の全農業生産量に占めるシェアは未だに0・18%にすぎず、大方はマイナー、小規模、マニアック